

なな

12月号
vol. 190

特集

Jobなな

ジョブ
なり

第6回 毛皮をつくるしごと

「グルグル」
HANA
(ピンク・アイアール工房みすのみば)



大阪駅からJR大阪環状線内回りにしばらく乗っていると、芦原橋駅から今宮駅に至るまでの短い区間の車窓に、緑地に白字で書かれた「岸本毛皮商店」のテントがよく目に付いていた。今はもう2階建ての駐車場の向こうに隠れて見えなく

第6回 毛皮をつくるしごと

なっている。大阪の街のど真ん中に「毛皮」とあったのが妙に印象に残っていた。今回はご縁があつて、かつて気にかけていた「岸本毛皮商店」の店主・岸本三章さんにお話をうかがった。

下積みの時代

初めて毛皮の仕事に携わったのは46、47年前のこと。浪速区大國町で手広くやっていた毛皮の製造・卸売店で2年ほど働いていた。中国産のウサギの皮を扱っていて、倉庫にはびっくりするくらいウサギの皮が山積みになっていた。それを社長の指示にしたがって何度も仕分けを繰り返すのが、岸本さんの仕事だった。

社長はいったん会社の前の



ジョブ
なり

「これが私の仕事也」。
17,000以上もある日本の仕事のなかから、西成で働く人々の仕事の流儀を学んでみよう。誇りを持って仕事をするってどんなだろう？
そんな仕事を学べる時間はけっこう少ないのかも。

道で皮を広げて、等級を選び分けていく。岸本さんは等級別に100枚ずつ括り直す。夏の炎天下での作業は本当にまいった。「あれ思い出したら、以後の仕事なんてもう楽なものや(笑)」
仕分け作業の他には内職屋への配達や製品の検品をしたが、今の仕事に活かしているのは検品の仕事だった。ここで目利きが養われた。検品のポイントは毛量・光沢・肌触り。なかでも毛量がいちばん大事で、その判断の基準は「それはもう年季が入らんと、一口で言えせんわな」。

おかげで、作った商品の返品はこれまでにほとんどないというのが、岸本さんの自慢。「岸本さんとの製品は検品せずにみな、出荷しますねん。そんなけ信頼しますねん」という取引先の言葉は仕事の励みになったという。

働きはじめて2年後、奈良県



宇陀市にいる姉が毛皮の製造業を始めた。手ごたえを感じた姉は身内の岸本さんにも声をかけた。見習いで2年間、毛皮製品をつくることになった。その後は帰阪して芦原病院裏の公園横に工場を構え、姉の事業の下請けを10年以上。キツネ、ミンク、タヌキなどの毛皮で襟巻きを作っていた。

現在地に移転してきたのは立ち退きのためだった。それから



したものの一つだ。
きつかけは西成で車掌カバン専門の職人さん（故人）と友だちになったこと。そのカバンのフォルムを見て、「毛皮でこれ作ったら絶対気に入ってもらえるわ」と閃いた。早速、その友だちからカバンの金具を分けてもらい作ってみた。

つい最近、高校生がすごく珍しがって買っていったそう。そういう、昭和の頃の古いデ

毛皮を縫う

30年余、自営業として「岸本毛皮商店」以下、岸本商店）を営んでいる。

岸本商店は毛皮製品（リアルファー）を作って業者に卸・販売する商売をしている。現在は、主にカバンや小物を作っているが、ミンクのコートの作り方についていくつか教えてもらった。

まず、皮について。仕入れは主に、バイヤーを介してフィンランドで開催されるオークションで調達した。ミンクの皮は雄／雌を用途によって使い分ける。雄の毛並みは荒々しいので、襟巻などで豪華さや派手さを出すのに適している。雌は細かくて肌触りがいいのでコートにする。ロングコートなら一着作るのに50〜60枚、選別を考えたら100枚以上が必要になる。

コートの製造で特徴的なのは、「レットアウト」という作業である。毛が付いていない面に6〜7ミリ間隔で細かく斜めに切れ目を入れる。きゅうりの蛇腹切りが思い浮かんだ。とても手のかかる細かな作業だ。体長50〜60センチの皮をコートの丈の長さ、ロングコートなら120センチまで引き伸ばす。ついでレットアウトを終えた毛皮に裏地を貼り、それぞれのパーツを縫い合わせていく作業になる。その毛皮用のミシンはこれまでに見たことのない形状をしていて興味をそそられた。写真にある二つの円盤のあいだに毛皮を差し挟む。ミシンを踏むと、奥の円盤から手前に向けてセッティングされた針がピストン運動し、二つの円盤は回転運動して左から右へと毛皮を送り出していく、という仕組みだ。

毛皮は裏地を縫い合わせてい

ザインが若者のあいだで流行していると聞く。若い子には新鮮に見えるらしいが、あの頃の時代にしか現れない、「レットロ」という言葉だけではもったいない雰囲気、デザイン性があるように思える。

フェイクに抗う

周知のように、昨今、毛皮（リアルファー）の評判はよろしくない。フェイクファーが主流になりつつあるらしい。動物愛護団体の影響が大きいのはもちろんのこと、ハイブランドもリアルファーを使わないようになってきている。百貨店もその流れには逆らえない。また、ファッションに敏感な若者もリアルもフェイクも「ファー」で一括り。安いほうへ行ってしまうのも仕方のないことではある。品質もどんどん向上している。見た目では区別がつかない。



悪条件を数え上げたらきりがなし。こんな逆風のなかでも岸本さんはフェイクファーを扱わないという。「プライドがあつてね、『こんな偽物や』っていう頭がどっかにある。その触った感覚とか心地よさというのは自分が一番知ってるからね」。たしかに、リアルファーの肌触りは、すごく滑らかで心地いい。この質の良さをより多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいの



くために、裏地を上にしてミシンにセットする。面倒なのは、上にはみ出してくる表地の毛を、千枚通しを使って下に押し戻すという一手間が伴っているところだ。同じ革でも脱毛した革や毛足の短い革を使う他の製品ではない作業が加わっている。レットアウトもこの縫合の作業も、とても繊細な手間ひま

手づくり一点もの

今この岸本商店はどのような製品を作っているのだろうか。岸本さんは、できるだけ同じものを作らないよう「手作り一点もの」を心がけている。「車掌カバン」はこの岸本イズムが作り出

だろう。

先にも触れたとおり、岸本さんのこだわりは「手づくり一点もの」。毛皮・革という素材の良さを活かすいろんな工夫を凝らしている。その工夫やこだわりを直接、お客さんに話して納得してもらいたい。こんな岸本イズムがピンチをチャンスに変えるのかもしれない。お店はJR今宮駅から200mのところにある。ぜひ足を運んで、毛皮のリアルな肌触りを実感してもらいたい。

文責：若松司

※製品は「手づくり一点もの」なので、画像と同じ製品があるとは限りません。予めご了承ください。

岸本毛皮商店

住所：浪速区浪速3丁目4番地3号
101
電話：06(6561)7854
携帯：090(1076)7747
営業時間：午後1〜5時
定休日：なし



遊び編 1

新聞紙大集合

毎週土曜日「ゆ〜とあい」で開催する楽塾は、2022年で開塾15周年を迎え通算530回目の授業を終えました。そこで様々な地域や場で多彩な居場所づくりに汗する人々に、楽塾授業の一端を公開し、参考にと考えたのが当シリーズです。楽塾の理念は「あそびを学び、まなびを遊ぶ。新しい学校の冒険」です。これまでに実施してきた授業の一部を隔月連載で紹介します。

地獄のトンネル



もう8年も前のこと。年に一度楽塾旅行での宿泊先の夕食後、これまた恒例のメインイベントを催しました。そのテ

マが「地獄のトンネル」で、この遊びを先日楽塾でリバイバルしました。当特集の最初をこのプランとします。先日の参加者は8人で2グループ（各4人）対抗となりました。みんなで道具づくりから楽しみました。

① 床の上に新聞全紙（ヨコ約80×タテ約54cm）を連続3枚（小児の場合は全紙2枚程度）横一列に並べ、新聞紙の両端をセロテープで仮止めし、そのあと粘着テープで固定します。これを立てると筒状になります。これが1単位（1段）となります。

② 私たち大人のトンネルを5単位（5段）と決め、グループごとに、これら1単位の新聞紙を5枚（5段）作りしました。それらを床上にタテ5枚に並べ、4か所の接点をテ



プで連続してつなぎます。
③ タテに並べると270cmの長細い筒状の新聞紙となつて完成。これで2グループそれぞれがトンネルを所有しました

小児用ならこの筒状新聞紙のタテの長さを3単位（3段・タテ162cm）ぐらいにしてはいかがでしょうか。3単位なら2か所をテープで止め、これで人が筒内を這いながら通過できるトンネルが完成するはず

.....
*1グループで5単位の新聞を使うと15枚、2グループで全30枚が必要です。小児用なら3単位6枚、2グループなら12枚が必要。単位は自由に配分してください。また参加

人数によって適宜グループ分けをしてください。まずは新聞紙を協力しあつて集めましょう。

おとな大絶叫！

ゲームは「スタート！」の号令で開始。新聞紙製の筒状トンネルに突入し、這いまわつて出口に出たあと用意されている帽子を被り、再びトンネル内へターンし帰還します。元に戻ったら次に立つ選手にタッチし、帽子をリレーし最後まで帽子の手渡しを忘れないこと。

もちろん競争なので、先にゴールしたグループが勝ちですが、困ったことにこのト



ンネルは新聞紙なので、無理し、急ぎ過ぎて焦つたりすると破損し、裂けて大きな穴ができる恐れもあります。いずれのチームが早くゴールできたかを先ず競います。しかし新聞紙が破れ、ボロボロに破損させた部分もカウントされ（傷口の長さをメジャーで測る）、競争で勝つても、破損度がより大きいチームが敗者となるルールとします。一ゲームごとに破損部をテープで補修しておきます。

この日、一貫して共同で「ゲーム作りからゲームを遊ぶ」を楽しむ、遊び疲れ、塾生諸君はいつもの夕食をおいしく頂きました。

えと文・楽塾 佐々木敏明



【谷口円】2ヶ月限定の水彩木版画講座を受講中。彫刻刀を握るのは小学生ぶりですが、木を彫る作業は無心になって心地よいです。頭を空っぽにできる時間って案外貴重。



【田岡秀朋】もう、年の瀬。昆虫ずきの息子を持つ親としては、『昆虫すごいぜ！』再開の見通しが立たないのは、ちょっとイタイ。でも、『超進化論』という特番は面白い。第3回目を楽しみに年を越そう。



【沖田一志】息子が通学途中に財布を紛失。警察に届けてくれた方があり財布は無事に戻ってきた。警察の返還書類は警察官2人が手書き転写して作成してくれた。昭和の懐かしい雰囲気を感じた。

葉っぱの吐見

といき

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「紅葉の葉っぱ」の巻

青紅葉さま。

ピンと張りつめた空気の日が多くなる季節になりました。お元気ですか？

あなたはきつと、寒さにも負けず、

凜とした姿ですごされていることだろうなあと

7月に頂戴したメッセージを読み返しおもっています。

私は元気です。

ひんやりした空気、つめたい風にも慣れてきました。

おかげで私の体は少しずつ色づき始めています。

あなたから受け取ったバトン。

しっかりと受け取ることができて安堵する自分です。

あなたにバトンを返せる日まで頑張ります。

暖かくなったらお会いしましょう。

では、その日までさようなら。

赤井まゆみ

紅葉のこと

2022年7月号の主人公に便りを書きました。春夏の青紅葉。秋冬の紅葉。色は対照的ですが仲間という気持ちを表現しました。

い湯がげん



水平社二〇〇年の時空を超えて⑨

露天商禁止反対運動

前号の住宅闘争と時系列が前後しますが、松田喜一は、1947年から51年頃、露店商禁止反対運動を指揮しています。

「バラック」とともに敗戦直後の大阪を象徴していたのが「闇市」と「露店」でした。それは大変な時代でした。今回の舞台写真は、映画『名もなく貧しく美しく』（監督…松山善三、1961年公開）から、露店で靴磨きをする豊田の夫婦。演じるのは小林桂樹と高峰秀子です。松田喜一が組織したのは、御堂筋や駅前の露店靴修繕業者で、そのほとんどが部落のひとでした。

廃墟と化した大阪で露店が仕事場になったのは当然のこと、GHQや行政、警察も、乱暴に排除はできませんでした。しかし、無許可営業では困りますし、無法集団の暴力的な支配は治安を脅かしています。

た。松田喜一は強制排除には断固たる態度で臨みましたが、交渉には柔軟でした。その方策のひとつは、新規の露店は認めず、現在の業者を登録して許可証を出すこと、もうひとつは、移転費用と移転場所の保障を求めることでした。

強制排除に対しては、露店商禁止反対同盟を結成して闘い、一時は淀屋橋から御堂筋まで通行止めになっってしまうほどの盛り上がりを見せました。移転費用と移転先保障については、松田は戦前の経済更生会運動を復活させ、それを受皿にしようとした。

許可証発行にあたっては、大阪府は露店商許可条例を制定したのですが、「公共の福祉」に反する場合に許可を取り消すという条項を定め、本籍や前職の記載も求めました。「公共の福祉」は、GHQの占領

が終わるや、日本政府が持ち込んだ「新たな秩序」でした。典型的なのが「らい予防法」（1952年）で、条文に盛り込んだ「公共の福祉」を以て隔離を正当化しようとし、問題の解決を遅らせました。

部落問題もまた、「新たな秩序」に組み込まれていきました。露店商に「本籍・前職」を書かせようとしたのはその表れでした。「公共の福祉」は一見「戦後民主化」のようでありながら、よくよく考えると「新たな排除」でした。

松田喜一は、その排除や身元表記に抵抗しつつ、移転保障や仕事場確保などの現実的な方策を求めて、露店現場で仁王立ちになって闘い、皮革産業と部落民の生活を守ろうとしたのです。

時代とよく似ていました。松田喜一は、露店現場やバラック住居でのゲリラ戦のような攻防から、部落問題への方策を熟考し、それが「同促方式」へとつながっていくのです。戦後の同和对策はかんたんに実現したわけではありませんでした。松田喜一は、戦後の同和对策に知恵を出した人でした。その過程を、次回から紹介したいと思います。



今、厚生労働省が社会福祉法の改正により、「重層的支援体制整備事業」を地域共生社会実現のための新たな政策として全国の自治体に示している。これまでの高齢、子ども、ひとり親家庭、就労など課題別に縦割りで行ってきた相談事業を地域共生社会実現のために地域丸ごとの総合的な問題解決へ向けた政策である。

ただ、大きな自治体である政令指定都市などでは実施は容易ではない。大阪市は3年の準備期間を使って検討しているものの、どうなるかわからない状況である。一方、区単位では「つながる場」事業を行っており、総合的な問題解決へ向けて動きだしている。国の打ち出した事業も活用して、民設民営の隣保館やNPOなどの市民活動団体などともうまく連携してほしい。

(寺本良弘)

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



【若松司】渡邊英理『中上健次論』。朝日新聞の書評に「スリリング」とあった。修辞を巧みに駆使したその読解にと思いついた形容は、「解像度が高い」という当世風の言葉だった。



【山村裕太】漫画『HUNTER×HUNTER』の連載が約4年ぶりに再開しました。休載していないことが珍しい作品ですが、読むのを止められないほど面白い。次の休載は半年くらいで動弁してくれないかな。

地域の縁を心でつなぐ

松崎 寺こい 心の時間

「死んだら無になるのですか？」と尋ねる人がいます。死んだ後を心配する前に、「今をどう生きるか」という大切な問題があるかと思っています。この問題の答えが見えてくると、自ずと死んだ後の問題も解決するのではないのでしょうか。

そもそも死んだら無になる

という「私」とは何か？ 仏教で

は「私とは、本来存在していない

はずの私が色々な縁によって、ここに存在する。」

と説きます。身体は臓器・血・骨などが集まり成り

立っているに過ぎない。むしろ明日終わるかもしれない

人生を今日まで成り立たせてきた色々な縁、

これが「私」の本性です。

本性を正しく見極める眼を養うことで多くの苦

しみから解放されます。明日の保証がないことに気

づき「今を大切にする」。いろいろな縁のおかげさ

まで生かせて頂いていることに気づき「感謝の気持ち

」を持つ。この二つの実践が「今をどう生きるか」

に対する私の答えです。ここまでくれば冒頭の問い

への答えも自ずと導かれるでしょう。即ち、お任せ

したらいのです。

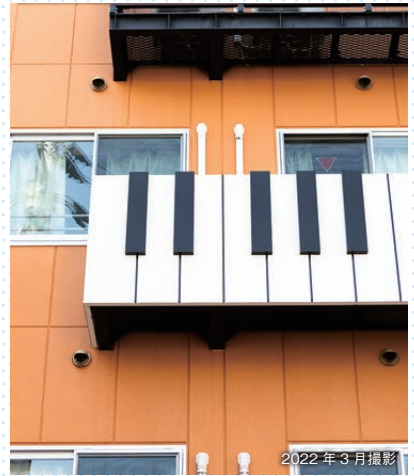
松向寺 通法

ココロドコ

ココはドコ？
わたしはゆ～れ？
編集部が厳選した
「にしなり」100景！
大公開！

バルコニーがピアノの鍵盤になっている、発想が素敵な建物です。ちょっと楽しい気分になれますね。ココがドコだかわかった人は、ゆ～とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は12月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 天下茶屋東2丁目15-3、末広温泉の跡地でした！お風呂屋さんが年々減っていくのは少し寂しいですね。



ゆ～とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 12月号 (vol.190)

発行日: 2022年12月1日 (創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33

電話: 06-6563-1150

E-mail: info@nice.ne.jp

url: <https://www.nice.ne.jp/>

編集長: 若松司

編集: 沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太 (あいうえお順)

イラスト: hidarimaki デザイン: 谷口円

(株) ナイス
ホームページ

